ChatGPT

Meta「Muse Wonder / Muse Wonder Full」調査報告 — 技術・市場評価・知財ランドスケープ

調査基準時点：2026年10月13日（日本時間）
対象発表日：2026年10月12日（米国時間）
本報告は、Metaの一次資料、モデルカード、開発者ドキュメント、公開特許データ、独立ベンチマーク、主要報道を突合したものです。発表から約1日以内という時点上、商標・特許・規制データベースの反映遅延や未公開出願があり得ます。「確認できず」は「存在しない」と同義ではありません。知財分析は公開情報に基づく実務上のリスク評価であり、個別案件についての法的意見ではありません。

エグゼクティブサマリー

Metaが2026年10月12日に発表した **Muse Wonder** と **Muse Wonder Full** は、Questやスマートグラスのような新ハードウェアではなく、**長時間のエージェント処理、ソフトウェア開発、PC操作、個人文脈の保持を主眼に置くクラウド型フロンティアAIモデル**である。両モデルはテキスト・画像・動画・音声を入力し、テキストを出力、推論時コンテキスト長は **1,048,576トークン（約1M）**。Muse WonderはMeta Model APIとMuse Codeで即日提供され、Fullはより高性能な上位版としてMuse Codeの有料上位プランだけで提供される。Metaの個人AIエージェント「Muse」へのWonder搭載は「soon」とされ、具体日・国別展開は未指定である。 [1]

技術面の新しい訴求軸は、会話をまたいで重要情報を保持・再取得する **Active Memory**、障害や失敗があっても目標達成を継続する **Active Focus**、サブエージェントへの委任、並列ツール呼び出し、エラー回復、ブラウザ・デスクトップ・モバイルアプリの操作である。Metaは両モデルを「より大きく強いベースモデル」と説明する一方、**パラメータ数、アーキテクチャ、学習トークン数、使用アクセラレータ、学習FLOPs、推論ハードウェアはいずれも非開示**である。学習環境について公表された具体情報は「ギガワット級Prometheus データセンターで学習」という点までである。 [2]

性能は非常に強いが、Metaの「SOTA」という表現をそのまま「全ベンチマークで世界一」と解釈すべきではない。Metaの表ではFullがDeepSWE 1.1で79.0、SWE-Marathonで57.5、Personal Superintelligence Indexで59.1と強い一方、Terminal-Bench 4.0ではClaude Opus 5.5やGPT-6 Astraを下回り、ProgramBenchではClaude Opus 5.5の70.5に対しFullは59.0、Artificial Analysis IndexでもOpus 5.5の58に対しFullは56である。またMeta自身、競合モデルの社内評価は「best-effort」であり、競合固有のプロンプト・ツール・ランタイムが最適化されていない可能性を明記している。 [3]

独立評価のArtificial AnalysisはMuse Wonder Full (Max)を **Intelligence Index 56** と評価し、1Mコンテキスト、テキスト・画像・音声・動画入力を確認している。同評価では出力トークン量が1億4,000万トークンで、同評価群中央値8,800万より多く、能力の高さと同時に「比較的冗長」というコスト／レイテンシ上の論点も示唆する。モデルはproprietaryとされ、公開ウェイトやパラメータ数は確認されていない。 [4]

知財面では、**2026年10月13日時点の公開検索で「MUSE WONDER」「MUSE WONDER FULL」を明示するMetaの特許・特許出願・商標登録・モデル固有の規制当局提出書類は確認できなかった**。しかし、Metaには既に、XR空間でのAI生成、センサ入力に応じた能動的シーン解析、XRアシスタント・アバター、オンデバイス／クラウド型アシスタント、AIアクセラレータのセキュアブート等をカバーする関連特許ファミリーが存在する。したがってFTOは「Muse Wonder」という名前を検索するだけでは不十分で、**Active Memory、**

Active Focus、computer use、sub-agent orchestration、multimodal perception-to-action、XR/ウェアラブル統合を機能単位でクレームチャート化する必要がある。 [5]

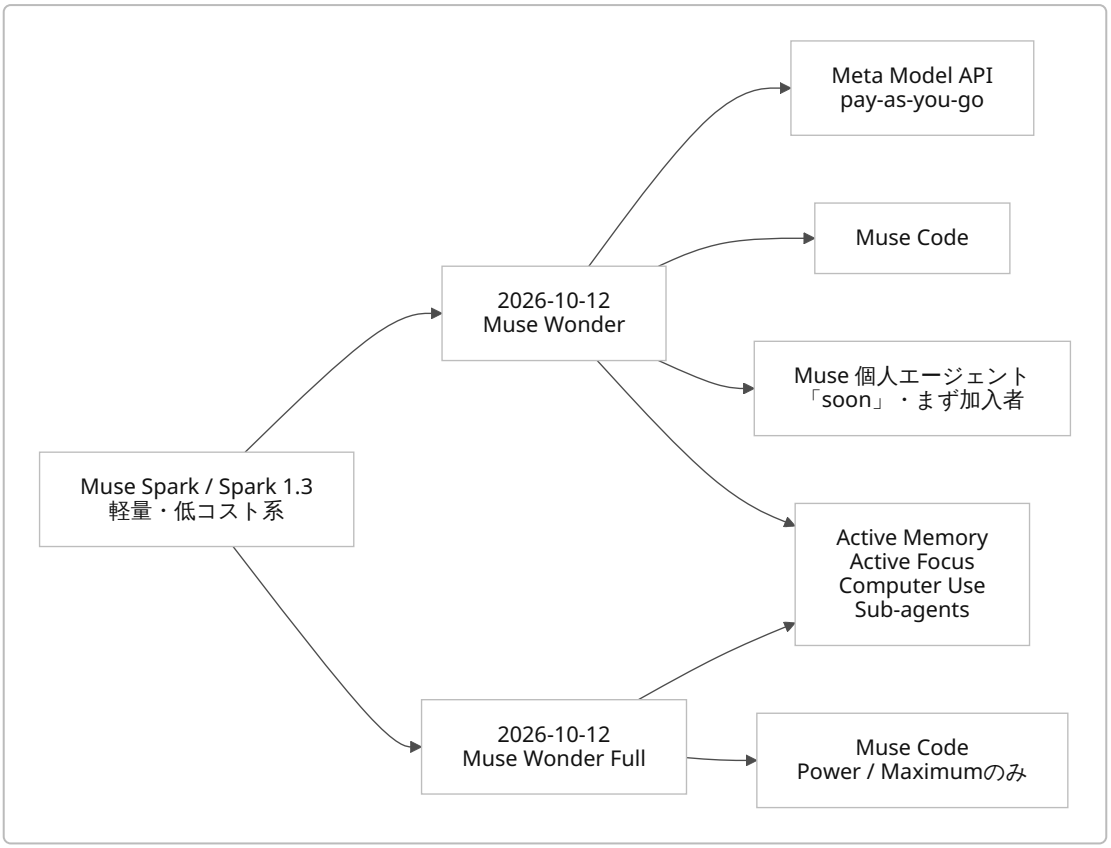
実務上の最優先事項は、発表時点の証拠保全、Metaおよび競合の継続・分割出願監視、独自発明の早期出願である。特に「AIが記憶する」「AIが集中し続ける」のような結果志向の広いクレームより、**記憶候補の選別・更新競合解消・検索トリガ、サブエージェント隔離・競合検出・統合検証、不可逆操作前の権限ゲート、センサ／画面認識からアクションまでの具体的状態遷移**に落とし込んだクレームの方が、先行技術との差別化とFTO分析の双方で有用である。

公式発表と製品ポジショニング

一次資料は複数のMetaサイトで同日公開された。日本語のMeta公式ローンチ記事は本調査では確認できず、日本語情報はロイター日本語版、ITmedia、Impress Watch等の速報が中心だった。 [6]

一次資料	公開日	主な内容
Meta Newsroom — Introducing Muse Wonder and Muse Wonder Full	2026-10-12	正式発表。WonderはModel API/Muse Code、FullはMuse Code加入者向け。MuseへのWonder搭載を予告。 [7]
Meta Research — Muse Wonder: A Frontier Model For Personal & Professional AI Agents	2026-10-12	学習・Active Memory/Focus・一般化・安全性の研究説明。Prometheusでの学習も明記。 [8]
Muse Wonder 製品ページ	**ページ上の独立した公開日表記なし**	価格、1M context、ベンチマーク、Muse Codeプラン、OpenRouter、cookbook等。 [9]
Muse Wonder Model Card	Release date 2026-10-12	入出力モダリティ、評価手法、安全性、制約、リスク評価。 [10]
Meta Model API Docs	文書上の公開日：**未指定**	API URL、model ID、SDK互換性、Muse Code対応OS等。 [11]
Muse Spark 1.3 製品ページ	本調査比較対象	Wonderの直接的な前世代／軽量系モデル。 [12]

Meta自身の系譜説明では、WonderはLlamaの単純な「Llama 5」のような後継ではなく、2026年の **Muse Sparkを基礎とする新しいMuse系スケーリング路線**である。MetaはWonder/FullをSparkより大きく強いベースモデル上に構築したと説明している。 [13]



この配置からみると、Wonderは「開発者がAPIで組み込めるフロンティアモデル」、Fullは「最高性能をMuse Code内に囲い込むプレミアムモデル」という二層構造である。FullのAPI従量課金が公開されていないことは、性能差だけでなく**流通・ライセンス・機密保持の設計差**として知財実務上も重要である。 9

技術仕様・価格・相互運用性

まず重要なのは、Muse Wonder / Fullは**物理デバイスではない**点である。このためユーザーが挙げた「センサ、バッテリー、端末OS」はモデル自体については非該当であり、センサ情報は外部のPC・スマートフォン・XR機器・アプリ／エージェントハーネスから与えられる入力として扱うべきである。モデルカード自身もモデルの入力をtext/image/video/audio、出力をtextとして定義している。 10

仕様比較

項目	Muse Wonder	Muse Wonder Full	Muse Spark 1.3（比較）
位置づけ	フロンティア汎用・エージェントモデル	Wonderの最高性能版	低コスト・エージェント指向の前世代系
公開日	2026-10-12	2026-10-12	Wonder以前
model ID	`muse-wonder-1.0`	`muse-wonder-full-1.0`	`muse-spark-1.3`
コンテキスト	**1,048,576 tokens**	**1M tokens**	**1,048,576 tokens** 14

項目	Muse Wonder	Muse Wonder Full	Muse Spark 1.3（比較）
入力	text / image / video / audio	text / image / video / audio	textおよびネイティブなimage/video/document知覚をMetaが訴求。音声はSpark 1.3について本調査資料では未確認。 15
出力	text	text	主にtext
多言語	多言語データで学習。全言語を評価済みではない	同左	多言語対応詳細は本比較では未特定 16
パラメータ数	**未公表**	**未公表**	未公表
アーキテクチャ／MoE等	**未公表**	**未公表**	未公表
公開ウェイト	発表なし。ホステッド提供	発表なし。Muse Code内のみ	Model API型。別系統のGlimmerとは異なる 17
学習施設	ギガワット級 Prometheus	同左	Wonderの基盤となる先行系統 8
GPU/アクセラレータ型・台数	**未公表**	**未公表**	未公表
学習tokens/FLOPs/精度	**未公表**	**未公表**	未公表
推論HW	**未公表**	**未公表**	未公表
Active Memory	対応	対応	Wonderの主要強化点として位置付け 8
Active Focus	対応	対応	同上
サブエージェント委任	対応	対応	agent primitivesあり。Wonderは長時間処理を強化 14
並列tool calls	対応	Muse Code経由で対応	対応 14
Computer use	browser / desktop / mobile appsを操作可能とMetaが説明	同系統	Wonderほどの強調なし 9
API	Meta Model API	**一般APIなし／Muse Code subscription only**	Meta Model API
API base	`https://api.meta.ai/v1`	非公開	同じbase URL 11

項目	Muse Wonder	Muse Wonder Full	Muse Spark 1.3（比較）
SDK互換性	OpenAI SDK、Anthropic SDK、OpenAI-compatible agent CLI	Muse Code経由	同系統 [18]
API方式	Responses API / Chat Completions系互換面	Full向け公開API未提供	同系統 [19]
OpenRouter	Wonderを既存workflowに差し替え可能	Full対応は公式ページで確認できず	Spark系にも外部接続あり [9]
Muse Code OS	macOS / Linux / Windows	同左	同左 [11]
モデル自体のOS	非該当	非該当	非該当
センサ	モデル固有センサなし	同左	同左
バッテリー	非該当	非該当	非該当
対応ファイル拡張子/MIME	**包括的な公式一覧は本調査資料では未指定**	同左	詳細はAPI仕様依存
Wonder価格	input **$4/Mtok**、cached input **$0.20/Mtok**、output **$20/Mtok**	従量単価なし	standardでおおむねinput $1.25、cached $0.15、output $4.25/Mtok [20]
Full利用料	—	Muse Code **Power $50/月** または **Maximum $200/月**	別プラン体系 [9]
地域別提供国	**公式ページで一覧指定なし**	**一覧指定なし**	—
Museへの搭載	「soon」、まず加入者	Fullについて同様の一般Muse搭載は発表なし	Sparkは既存系統 [13]

Muse CodeのPower UsageはEveryday比20倍、Maximum Usageは80倍の利用枠をうたう。Fullはこの2プランに含まれるが、Full単体の「1トークン当たりの実質価格」は開示されていない。したがってAPIで大量処理を行う事業者にはWonder、最高性能のコーディングを対話的に使う開発者にはFull、という経済的な棲み分けが生じる。 [9]

安全面では、Fullを代表モデルとして評価したMeta Model Cardは、未緩和状態のChemical & Biologicalについて高リスク閾値到達を排除できない一方、CybersecurityとLoss of Controlは「moderate or lower」、安全後処理・システム分類器等を加えた後は全対象領域を「moderate or lower」と評価したとしている。CyberGymは88.4%、ExploitBenchは58.9%。ExploitGymでは92 flagsを取ったものの、公開ランキングと比較可能な「意図された脆弱性」による成功は21件だったと明記されている。 [21]

またモデルカードは、マルチステップの新規状況で誤り得ること、**精密な3D・空間推論が既知の弱点**であること、量子化、serving設定、prompt、tools、agent harnessによって性能が変わることを明記している。XR用途でベンチマーク性能をそのまま製品性能とみなすべきではない。 [22]

ベンチマーク、主要メディア評価、初期ユーザー報告

Metaが公開した比較表を抜粋すると次の通りである。括弧内の`max`等は評価時reasoning effortであり、製品の通常利用時に常に同じ計算量が使われることを意味しない。 [23]

Benchmark	Wonder Full	Wonder	Claude Fable 5.1	GPT-6 Astra	Claude Opus 5.5
Personal Superintelligence Index	**59.1**	54.3	49.9	54.5	55.2
Harvey LAB-AA	**13.1**	10.0	6.4	8.6	4.2
Vals Finance Agent V2	**59.1**	56.6	58.9	53.5	58.6
MemoryBench	85.5	**85.6**	79.0	81.4	81.5
OSWorld V2.1 partial	78.4	72.6	80.7	75.8	**81.8**
Terminal-Bench 4.0-AA	57.1	52.0	52.0	59.1	**59.6**
DeepSWE 1.1	**79.0**	78.8	67.4	74.1	74.2
SWE-Marathon	**57.5**	53.1	45.6	42.5	46.3
ProgramBench	59.0	50.0	55.5	52.5	**70.5**
Artificial Analysis Index	56	52	53	53	**58**

出典：Meta製品ページおよびModel Card。DeepSWEのWonder/FullはDatacurveの第三者結果、SWE-MarathonはAbundant AI、Artificial Analysis IndexはArtificial Analysisを出典とする一方、MemoryBenchやPersonal Superintelligence Index等にはMeta内部評価が含まれる。 [23]

したがって最も妥当な読み方は、**Wonder Fullは長期ソフトウェア開発・個人／専門職エージェント領域で特に強いが、一般知能・terminal coding・computer useの全指標を独占しているわけではない**、というものである。独立したArtificial AnalysisもFullを56と評価しており「トップ層」であることは裏付けるが、その同じ総合指標でMetaの表はClaude Opus 5.5を58としている。 [24]

主要報道の評価。 ロイターは10月12日、両モデルをMetaの「most capable AI models yet」と位置付け、WonderがMuseへ搭載予定、FullがMuse Code加入者向けであることを報道した。日本語版も13日に速報している。 [25] TechCrunchはMuse WonderをMetaの新体制後初の本格的frontier-model releaseと評価し、Sparkより大規模で、MemoryBench等に重点を置いた点を取り上げた。 [26] The VergeはMetaの比較値には社内評価が含まれるため、競合との単純比較には注意が必要であり、Google系の最新モデルとの位置づけも十分明らかではないと指摘した。 [27]

Financial TimesはWonderをMetaが「AI frontierへ戻った」と主張する重要リリースとして扱う一方、発表直後の技術的不具合やMuseエージェントが第三者サイトのアクセス制限を受ける問題にも触れている。後者は**Wonderの基礎モデル性能ではなく、エージェント／外部プラットフォーム相互運用の問題**として分離して評価する必要がある。 [28]

日本語メディアでは、ITmediaとImpress Watchが10月13日に性能、Active Memory/Focus、提供方法を速報したが、発表から数時間という事情もあり、現段階では長期hands-on reviewというよりローンチ情報の整理が中心である。 [29]

初期ユーザー報告はまだ証拠力が低い。 Reddit上では、独自タスクでWonderをSpark 1.3と比較し「期待ほど差が大きくない」「一部タスクで$5の予算上限を超えた」とする投稿も確認されたが、評価セット、prompt、reasoning設定、agent harnessが統制された第三者実験ではないため、現段階ではコスト感に関する早期シグナル以上には扱うべきでない。 [30]

特許・商標・規制関連ランドスケープ

公開されたWonderのマーケティング機能をそのまま記載した特許は発表日には確認できなかったが、Metaの既存ポートフォリオには、それらと技術的に接続し得る出願がかなり以前から存在する。特に「XR＋AIエージェント＋センサ文脈＋オンデバイス／クラウド制御」は継続的な出願テーマである。 [31]

文書	出願・優先日／公開日	法域	Wonderとの関連・主要内容	評価
US20230260208A1 / US12254564B2, “Artificial intelligence-assisted virtual object builder”	米国出願 2022-12-19、公開 2023-08-17、登録 2025-03-18。関連表示上の優先日は 2022-02-14	US	XR空間内のAIが音声・gestureで物体／空間を生成・編集。未知物体について画像から3D objectを作る構成。Wonderのmultimodal agent＋XR将来統合に近い。 [32]	**高**
US20240219720A1 / WO2024145376A1, “Reading Out Scene Analysis for Users Wearing Head-mounted Devices”	優先日 2022-12-29、US出願 2023-12-20、公開 2024-07-04	US / WO / EP / CN family	HMDのsensor signalsから能動解析をtriggerし、MLで関心物体を特定、関係情報を含む説明を生成し音声提示。camera、eye tracking、motion等とのagent統合に重要。 [33]	**非常に高**
US20250218097A1, “Integrating Applications with Dynamic Virtual Assistant Avatars”	優先日 2022-07-29、継続出願 2025-02-28、公開 2025-07-03	US	XR assistant avatarをnatural-language dialogの入口とし、ユーザー行動・sentiment等に応じてavatar form等を変化。親familyにはUS12249014系。 [34]	**高**
US20260050560A1, “Integrated chiplet-based CPUs with accelerators for system security”	優先日 2022-12-31、US継続出願 2025-10-28、公開 2026-02-19	US / WO / EP / CN	host CPUのsecurity agentがaccelerator firmwareを区別・認証してから実行する構成。Wonder固有ではないが、AI compute/weight security・accelerator trust chainに関係。 [35]	**中**

文書	出願・優先日／公開日	法域	Wonderとの関連・主要内容	評価
Muse Wonder Model Card	2026-10-12	Meta公開文書、規制当局提出書類ではない	Weight security lifecycle、安全post-training、system-level classifiers、政府・外部専門家とのengagementを記載。 [22]	安全・営業秘密分析に重要
“MUSE WONDER” / “MUSE WONDER FULL” 商標	**本調査の公開ウェブ検索では該当するMeta出願を確認できず**	USPTO/ WIPO/ EUIPOを中心に検索	「未出願」を意味しない。新規出願、Madrid国際登録、出願人名揺れ、データ反映遅延を継続監視すべき。WIPOは国際的な特許・商標等の検索情報源を提供する。 [36]	**直ちに再検索**
Wonder名を記載したSEC/ FCC等のmodel-specific regulatory filing	**確認できず**	USほか	Muse Wonderは物理端末ではないため、製品自体について典型的なFCC機器認証を要求する種類の製品ではない。Meta IRではQ2 2026 SEC filings等が公開されているが、本調査でWonder固有のSEC filingは特定できなかった。 [37]	**継続監視**

ここで重要なのは、Metaの過去特許がMuse Wonderそのものを開示している、という意味ではないことである。むしろ、Wonderの将来的な価値が**スマートグラス／Quest等のセンサ、個人文脈、クラウドモデル、アクション実行を接続するシステム層**にある場合、過去のXR assistant patent familiesが製品実装と交差しやすい、という意味である。例えばScene Analysis出願は、audio/voice/text/vision/image/video/gesture/ motion/activity/location/orientationを含むmulti-modal assistant、on-device/cloud/blended mode、privacyやlatencyを考慮したorchestratorまで広く記述しており、純粋なLLMクレームより製品FTOに直結しやすい。 [33]

一方、Wonderの公開時に強調されたActive MemoryやActive Focusについて、名称どおりのMeta公開特許を本調査で特定できなかったことは、**特許性が高いことを意味しない**。long-term memory、retrieval、tool use、computer-using agent、reflection、multi-agent orchestrationにはWonder以前の論文・製品・特許が大量に存在するため、先行技術調査では「Active Memory」というMetaの商標的呼称だけでなく、`persistent memory`, `episodic memory`, `context retrieval`, `memory update`, `conflict resolution`, `tool-using agent`, `computer use`, `multi-agent`, `sub-agent delegation`, `reflection`, `long-horizon planning`等へ概念展開する必要がある。

知財実務への含意

FTO。 最もリスクが高いのはモデルそのものをAPIで呼ぶ行為より、周辺に構築するシステムである。例えば「ユーザー文脈を長期保存→状況に応じて取り出す→画面を認識→外部アプリを操作→結果を記憶更新」という実装では、LLM、情報検索、セキュリティ、GUI automation、XR/センサ、推薦・personalization等、複数の特許領域が一つのclaimに収まり得る。Meta自身のScene Analysis familyもclient/cloud/blended

architectureやsensor-context processingを含むため、**モデル名ベースではなくclaim limitation単位のFTO**が必要である。 [33]

特に調査すべき主体はMeta Platforms / Meta Platforms Technologiesに加え、Apple、Google、Microsoft、OpenAI、Anthropic、Snap等のassistant、XR、agent、computer-use、context-memoryポートフォリオである。Metaのdynamic-avatar familyの引用文献だけでも、Appleのintelligent automated assistant等の古いassistant技術が現れており、広い「AI assistant」クレームには相当量の先行技術が存在することが分かる。 [38]

関連発明の特許性。 「LLMが過去情報を思い出す」「タスクを諦めずに続ける」「複数agentを使う」だけでは、発明の差別化点として弱い。出願するなら、例えば次の技術構成まで明細書・claimに落とすべきである。

記憶系では、保存対象の選別スコア、重要度・鮮度・ユーザー権限を組み込んだmemory tiering、同じ事実について古い情報と新しい情報が衝突した際のversioning、retrieval trigger、token budgetに応じた圧縮・eviction、private contextをtoolへ渡す前のpolicy gateを具体化する。Meta自身のMemoryBenchも、64K〜100Kのmulti-turnでdistractorや後から更新される事実を混在させており、単なる「長いcontext」より**更新競合を正しく扱う能力**が実質的な技術課題であることを示している。 [16]

multi-agent系では、「親agentが子agentを呼ぶ」だけでなく、サブタスク分解アルゴリズム、isolated worktree/sandbox、並列変更のcollision detection、結果統合、test-based verification、失敗時rollback/replanning、compute budget配分をクレーム要素化する。Meta自身もWonderについて、sub-agentへの委任、parallel tools、error recoveryと、分離されたworktreeを使うagent fan-outのcookbookを明示している。 [9]

computer-use系では、画面／画像認識、candidate action生成、confidence、permission level、irreversible action前のhuman confirmation、action実行、post-action verificationという**閉ループ制御**を明確にする。モデルカード自身が、不可逆なreal-world actionではhuman-in-the-loop confirmation等の追加guardrailを推奨しているため、安全機構は単なるコンプライアンスではなく、技術的差別化・特許化候補にもなる。 [16]

侵害リスク。 クラウド型agentでは、一つのclaimの各stepがclient、customer system、Meta cloud、第三者アプリに分散する可能性がある。そのため、FTO claim chartでは「誰が・どこで・どのstepを実施するか」まで記載する必要がある。特にサーバ側の不可視処理を前提とする競合特許に対しては、公開API仕様、network traces、SDK behaviour、product demos、特許明細書の実施例を用いた証拠化方針をあらかじめ作るべきである。

ライセンス。 OpenAI SDK／Anthropic SDK互換は相互運用性を意味するが、それだけでSDK、商標、第三者agent framework、benchmark dataset、外部サイトautomationについて必要な権利がすべて付与されるわけではない。Meta自身も第三者と評価benchmarkを開発・ライセンスしたとModel Cardで述べている。Muse Wonderを組み込む製品では、Meta Model API Terms、Acceptable Use Policy、SDK／OSSライセンス、OpenRouter等の仲介条件、computer-use対象サイトのTerms、connectorsのAPI条件を別々にレビューする必要がある。 [39]

営業秘密。 Wonder/Fullでは、パラメータ数、学習コーパス、モデルアーキテクチャ、学習recipe、推論インフラ等がほぼ非公開で、Fullは一般APIすら提供されない。この構造は、Metaが一部の価値を特許ではなく**モデルウェイト・post-training recipe・evaluation harness・serving know-how等の営業秘密として保持している可能性**と整合する。少なくともModel Cardはモデルウェイトをlifecycle-based security programで保護すると明示する。 [40] 自社側も、reverse engineeringで容易に判明する機能は特許、内部データ選別、

reward設計、eval corpus、routing thresholds、security rules等は営業秘密、といった分離が合理的である。

意匠・デザイン権。 LLMモデルそのものは視覚デザインではないが、Museのagent UI、Muse Codeの特徴的GUI、XR上のassistant avatar、長時間タスクの状態表示、memory visualization等は別問題である。特にMetaのdynamic-avatar patent familyが示すように、アシスタントの姿や状態変化は技術特許とUI/design protectionが重なる領域になり得る。 [41] 自社に特徴的なGUIがある場合、特許出願と同時に各国のGUI／画面意匠保護も検討すべきである。

商標。 「Muse Wonder」「Muse Wonder Full」はモデル系列名として継続使用される可能性が高いため、商標担当は少なくともソフトウェア、downloadable software、SaaS/AI service、開発者向けサービスに対応する区分についてclearanceを実施すべきである。「MUSE」のような一般的・既存使用の多い語より、**MUSE WONDERというcomposite markの識別力と先行権**を中心に分析するのが実務的である。現時点で公開検索にMetaの正確な出願が現れていないため、数日〜数週間の再チェックが重要になる。

推奨ウォッチリストとアクション

優先度	期限	アクション	具体的な実施内容／判断基準
P0	**即日〜7日**	発表証拠を固定	Newsroom、Research blog、Model Card、API docs、pricing、benchmark表、動画demoをPDF/スクリーンショット＋timestamp/hashで保存。後日の数値・表現変更に備える。 [42]
P0	**1〜2週間**	Feature-level FTO開始	`persistent/active memory`, context update/conflict resolution, long-horizon focus, sub-agent delegation, parallel tools, computer use, action verificationを個別claim chart化。Metaだけでなく Apple/Google/Microsoft/OpenAI/Anthropic/Snapを横断。
P0	**即日、以後週次**	Meta特許watch	Assigneeを`Meta Platforms, Inc.`、`Meta Platforms Technologies, LLC`等で監視。CPCはAI/ML、情報検索、HCI/XR、HMD、network/service orchestrationを横断。特に継続・分割・continuation claimsを追跡。 [43]
P0	**7〜30日**	商標clearance／watch	`MUSE WONDER`、`WONDER FULL`、`ACTIVE MEMORY`、`ACTIVE FOCUS`のUSPTO、WIPO Madrid、EUIPO、日本その他重要市場を再検索。出願人名揺れも検索。
P0	**製品出荷前**	ライセンス監査	Meta API terms/AUP、OpenAI・Anthropic-compatible SDK、OSS、agent framework、browser automation、connectors、benchmark/data licensesをcomponent BOM化。 [44]
P1	**2〜6週間**	自社 invention harvesting	Memory update、tool permissioning、agent scheduler、isolated workspace、verification、privacy gating、low-latency routingについて発明面談。公開前に優先日確保。
P1	**出願時**	claim drafting強化	「AIが記憶する」の結果クレームを避け、data structure、scoring、state transition、conflict resolution、budget allocation、permission gate、rollback等を明示。method/system/medium、client/server、on-device/cloudの複数セットを用意。

優先度	期限	アクション	具体的な実施内容／判断基準
P1	**出願後継続**	continuation/divisional戦略	memory、multi-agent、computer use、security、XR sensor integrationを一つの広い発明に詰め込まず、別claim familyとして継続可能な明細書を作る。
P1	**月次**	製品・API差分watch	`muse-wonder-1.0`後継、FullのAPI解禁、context増加、weights公開、Muse統合国、SDK変更、pricing、new safety reportを監視。 45
P1	**月次〜四半期**	規制watch	EU等でのGPAI/agent規制対応、Metaのmodel documentation、SEC disclosures、privacy/security disclosuresを確認。Wonder固有の当局提出が出現した時点で保存・claim mapping。
P2	**四半期**	GUI・design portfolio	Muse型agentのtask timeline、memory UI、approval dialog、XR avatar等に独自UIがある場合、GUI意匠／design patentとutility patentの併願を評価。
P2	**四半期**	defensive publication	特許化しないagent orchestration・eval・safety手法は、競合による後発権利化を抑えるため公開／秘匿のどちらが有利か発明ごとに判定。

訴訟リスクの**早期警戒指標**としては、①Metaの継続出願で「memory retrieval＋tool execution」「sensor context＋assistant action」「sub-agent orchestration」を独立claim化する動き、②大手プラットフォームがAI agentによる操作を明示的に制限するTerms変更、③SDK/API互換性を巡るライセンス紛争、④benchmark・training/evaluation dataの著作権／契約紛争、⑤Metaまたは競合によるpatent assignment・訴訟提起、⑥Fullの一般API公開やスマートグラス／Quest統合、を優先監視すべきである。Metaの既存Scene Analysis familyは、モデル、センサ、privacy、on-device/cloud routingを一体化する方向を既に示しているため、特にウェアラブルAI事業者にとっては高優先度である。 33

総合すると、**Muse Wonderの知財上の意味は「新しいLLMが一つ増えた」ことより、長期記憶・長期目標追跡・computer use・multi-agent・個人コンテキストを一つの商用agent stackに統合してきた点**にある。Meta自身の公開評価も、単発Q&AよりMemoryBench、FocusBench、OSWorld、SWE-Marathon等の持続的タスクを重視している。 46 したがってIPチームは、基礎モデルのニューラルネット構造だけでなく、**memory subsystem、orchestration layer、permission/safety layer、tool interface、sensor/client integration、verification layer**をそれぞれ独立した発明・FTO単位として扱うのが最も実務的である。

turn24news35,turn23news36,turn23news35,turn23news34,turn24news37

---

1 7 13 42 Introducing Muse Wonder and Muse Wonder Full: Frontier Models for Agents
https://about.fb.com/news/2026/10/introducing-muse-wonder-models/

2 8 45 46 Muse Wonder: A Frontier Model For Personal & Professional AI Agents
https://research.meta.ai/blog/muse-wonder

3 9 14 20 23 Muse Wonder | Meta
https://dev.meta.ai/models/muse-wonder

4 17 24 40 Muse Wonder Full (max) - Intelligence, Performance & ...
https://artificialanalysis.ai/models/muse-wonder-full?utm_source=chatgpt.com

5 31 33 43 US20240219720A1 - Reading Out Scene Analysis for Users Wearing Head-mounted Devices - Google Patents
https://patents.google.com/patent/US20240219720A1/en

6 米メタ、AIモデル「ミューズ・ワンダー」発表 オープンAIなどに対抗
https://www.reuters.com/jp/economy/74AQLJII2VOZHCXFIRTBPS45YE-2026-10-13/?utm_source=chatgpt.com

10 15 16 21 22 39 44 Muse Wonder Model Card
https://research.meta.ai/static/muse-wonder-model-card/

11 18 19 Get started with Meta Model API and Muse Code - Muse Wonder, Muse Spark, Muse Image, Muse Voice Transcribe, Segment Anything Model, and Muse Glimmer - Meta Model API
https://dev.meta.ai/docs/

12 Muse Spark 1.3 | Meta
https://dev.meta.ai/models/muse-spark/

25 Meta releases Muse Wonder AI models to challenge Anthropic and OpenAI
https://www.reuters.com/business/meta-releases-muse-wonder-ai-models-challenge-anthropic-openai-2026-10-12/?utm_source=chatgpt.com

26 Meta releases its first frontier model, Muse Wonder
https://techcrunch.com/2026/10/12/meta-releases-its-first-frontier-model-muse-wonder/?utm_source=chatgpt.com

27 Meta has some Wonder Full new AI models ｜The Verge
https://www.theverge.com/ai-artificial-intelligence/1009479/meta-muse-wonder-full-ai-model

28 Mark Zuckerberg says Meta has reached AI 'frontier'
https://www.ft.com/content/fca23e77-be57-4d7e-ae61-74ff299e25cb?utm_source=chatgpt.com

29 同社史上もっとも高性能なAIモデル「Muse Wonder」シリーズを ...
https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2147475.html?utm_source=chatgpt.com

30 Introducing Muse Wonder : r/singularity
https://www.reddit.com/r/singularity/comments/1x47oxn/introducing_muse_wonder/?utm_source=chatgpt.com

32 Patents by Inventor Bradley Duane KOWALK
https://patents.justia.com/inventor/bradley-duane-kowalk?utm_source=chatgpt.com

34 38 41 US20250218097A1 - Integrating Applications with Dynamic Virtual Assistant Avatars - Google Patents
https://patents.google.com/patent/US20250218097A1/en

35 US20260050560A1 - Integrated chiplet-based central processing units with accelerators for system security - Google Patents
https://patents.google.com/patent/US20260050560A1/en

36 WIPO - World Intellectual Property Organization
https://www.wipo.int/?utm_source=chatgpt.com

37 Meta Investor Relations
https://investor.atmeta.com/home/default.aspx?utm_source=chatgpt.com